

おかやましんきん

中小企業景況レポート

vo1.86

2026.1~3

業況判断D I 1月~3月は6.4と10期連続でプラス

【2026年1月~3月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で6.9ポイント低下し6.4となりました。業種別の業況判断D Iは4業種においてプラスとなっています。

【2026年4月~6月期の予想業況判断D I】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で4.7ポイント低下し、1.7の見込みとなっています。

業種名	時期	2025年 10月~12月		2026年 1月~3月		2026年 4月~6月 (予想)
全業種総合		 13.3	 Δ6.9	 6.4	 Δ4.7	 1.7
製造業		 15.0	 0.0	 15.0	 Δ4.8	 10.2
卸売業		 4.5	 13.7	 18.2	 4.5	 22.7
小売業		 13.1	 Δ13.1	 0.0	 Δ13.9	 Δ13.9
サービス業		 17.7	 Δ10.3	 7.4	 Δ4.5	 2.9
建設業		 12.7	 Δ12.7	 0.0	 0.0	 0.0
不動産業		 5.5	 0.1	 5.6	 Δ16.7	 Δ11.1

景況
天気図
の目安

D I
好調 ←

30
以上


10以上
30未満


0以上
10未満

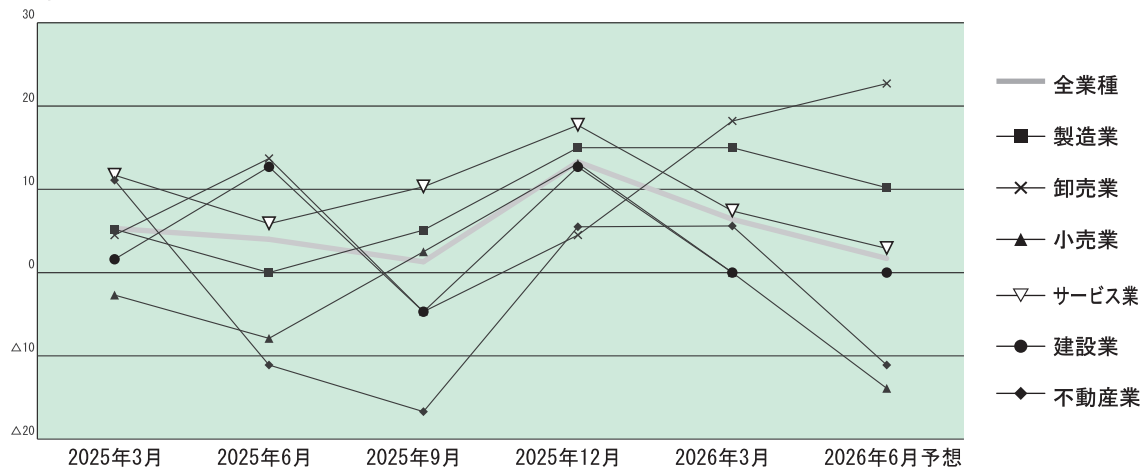

Δ10以上
0未満


Δ30以上
Δ10未満

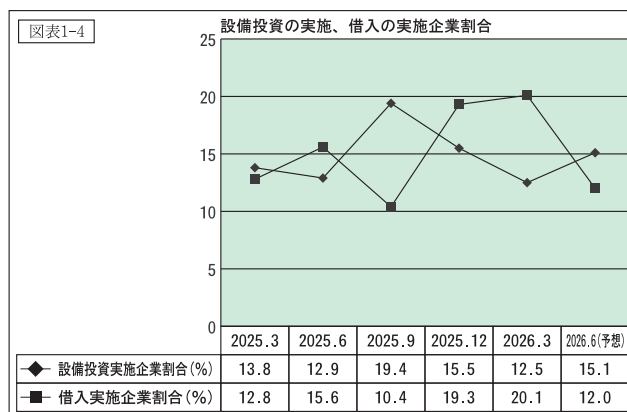
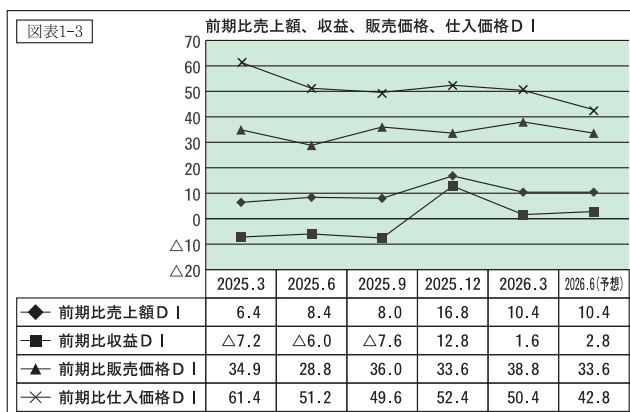
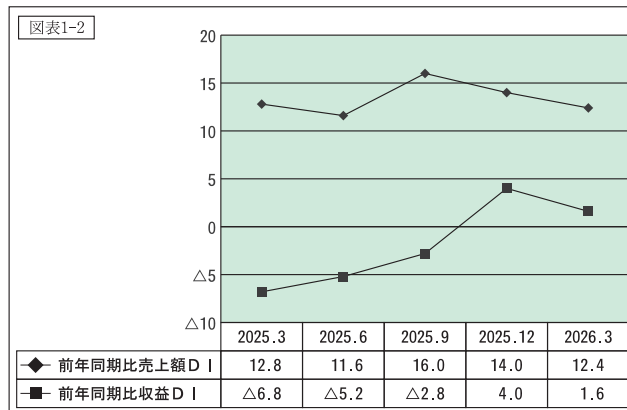
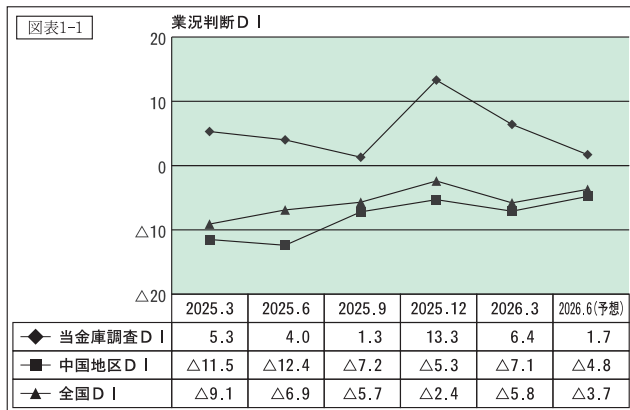

Δ30
未満


→ 低調

業況判断D I



全業種総合



景 況 ～業況判断D Iは6.4で10期連続のプラス～

今期の業況判断D Iは全業種総合で13.3→6.4と前回調査比で**6.9ポイント低下したものの、10期連続でのプラス**となりました。業種別においては小売業、建設業を除く4業種の業況判断D Iがプラスとなっており、全体として景況感はやや高めで推移しています。中国地区D I（△7.1）、全国D I（△5.8）との比較では、当金庫営業エリアにおける景況感のほうが高めに推移しています。次回調査期間（2026年4月～6月）の予想業況判断D Iは6.4→1.7と、今回調査比で**4.7ポイント低下するものの、業況判断D Iはプラスになる見込み**となっています（図表1-1）。

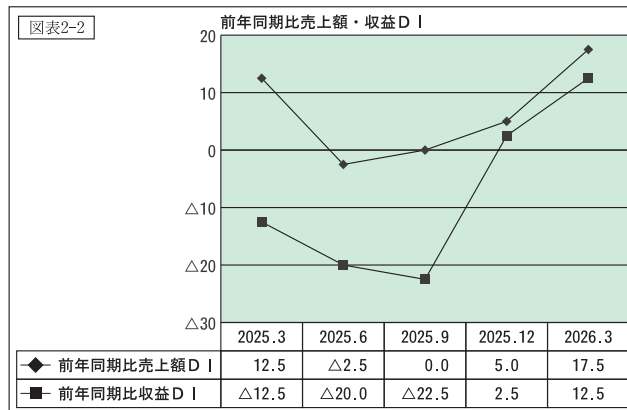
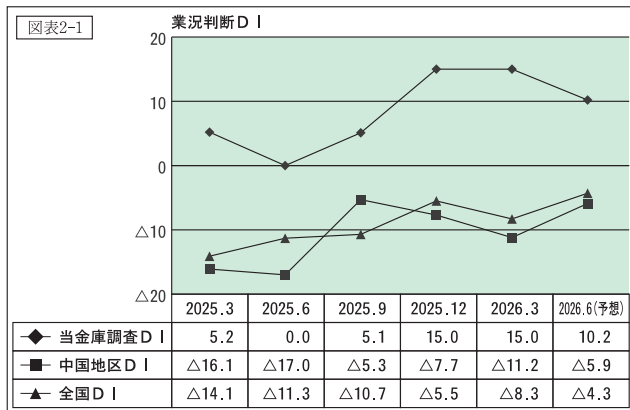
前年同期比売上額D Iは12.4、同収益D Iは1.6となり、前回に続き増収増益となっています。年度末に向けた駆け込み発注等により業況が好調推移し、利益確保できる企業が増えているものと思われます（図表1-2）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は12.5%となり、前回調査3.0ポイントの低下となりました。借入を実施した企業の割合は20.1%となり、前回調査比0.8ポイントの上昇となりました。

次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は15.1%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して2.6ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は12.0%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して8.1ポイントの低下となっています（図表1-4）。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が63.6%（前回調査比13.6ポイント上昇）となっており、半数以上の企業が設備投資を控える意向であることが窺えます。

製造業



景況 ～今期横ばい 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは15.0→15.0と前回調査比で**横ばい**の結果となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは15.0→10.2と**4.8ポイント低下する見込み**となっています（図表2-1）。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は「横ばい圏内の動きとなっている。」との判断となっています。生産種別で個別に確認すると、鉄鋼、化学について「アジアにおける供給過剰等の影響を受けて、横ばい圏内の動きとなっている。」となっています。

経営上の問題点としては「原材料高」と回答する企業が最も多い結果となりました。

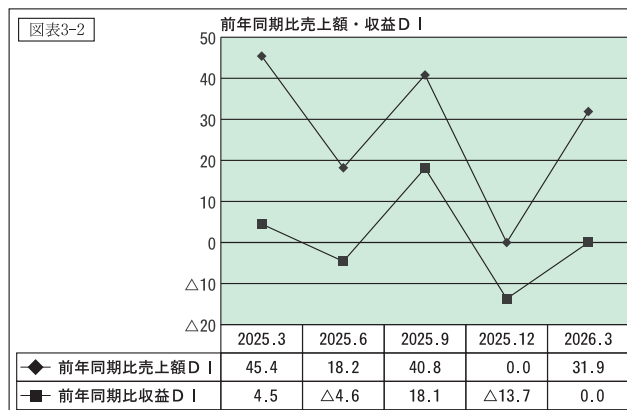
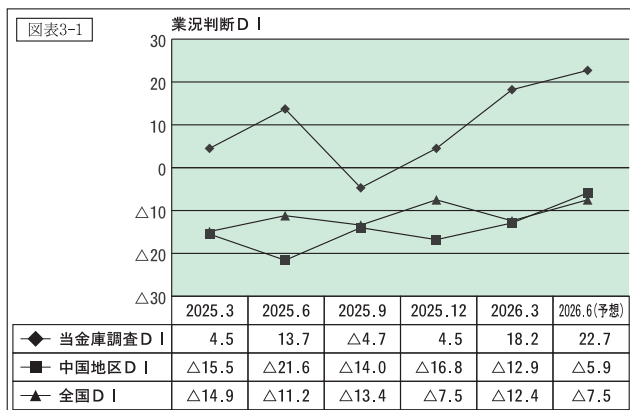
当面の重点経営施策においては「経費を節減する」と回答する企業が増加しており、高騰する原材料費に対して経費削減により利益確保に努めている企業が増えていることが窺えます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	原材料高	47.5%	人手不足	30.0%	売上の停滞・減少	27.5%
当面の重点経営施策	経費を節減する	55.0%	販路を広げる	42.5%	人材を確保する	30.0%

卸売業



景況 ～今期上昇 次回調査期間は上昇の見込み～

今期の業況判断D Iは4.5→18.2と前回調査比**13.7ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは18.2→22.7と**4.5ポイント上昇する見込み**となっています（図表3-1）。

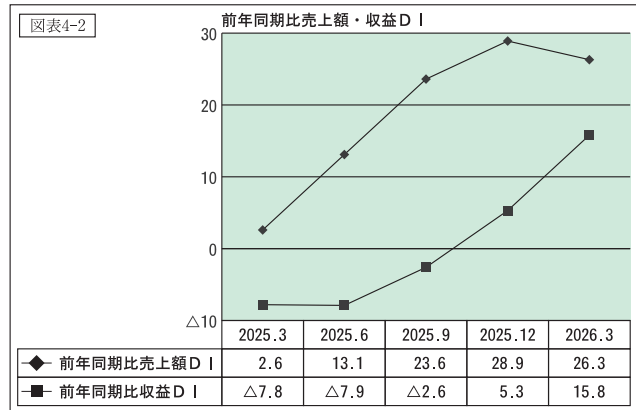
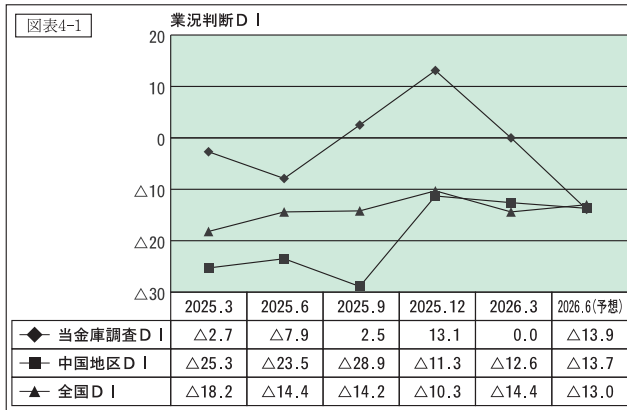
経営上の問題点としては「利幅の縮小」「仕入先からの値上げ要請」との回答が最も多くなっています。その問題点に対応するため、当面の重点経営施策では「経費を節減する」との回答が最も多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	利幅の縮小	22.7%	売上の停滞・減少	18.2%	合理性の不足	13.6%
	仕入先からの値上げ要請	22.7%	人手不足	18.2%	取引先の減少	13.6%
当面の重点経営施策	経費を節減する	59.1%	同業者間の競争の激化	18.2%	情報力を強化する	27.3%
			人件費の増加	18.2%		
			販路を広げる	45.5%		

小 売 業



景 況 ～今期低下 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは13.1→0.0と前回調査比**13.1ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは0.0→△13.9と**13.9ポイント低下する見込み**となっています（図表4-1）。

経営上の問題点において、「売上の停滞・減少」との回答が増加しています。

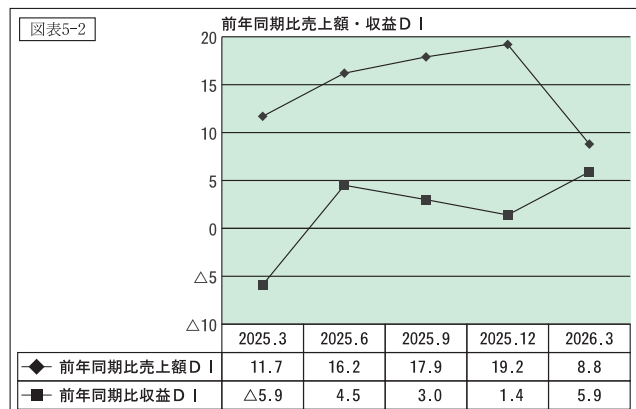
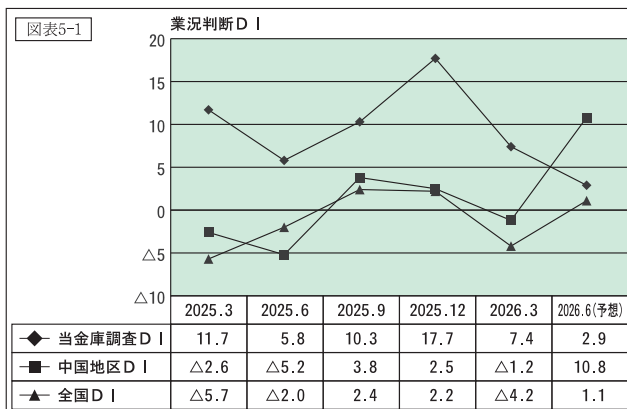
当面の重点経営施策では売上増加のため「売れ筋商品を取扱う」や「宣伝・広告を強化する」との回答が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	36.8%	同業者間の競争の激化 仕入先からの値上げ要請	26.3% 26.3%	大型店との競争激化	18.4%
当面の重点経営施策	経費を節減する	52.6%	売れ筋商品を取扱う	34.2%	宣伝・広告を強化する	23.7%

サービス業



景 況 ～今期低下 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは17.7→7.4と前回調査比**10.3ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは7.4→2.9と**4.5ポイント低下する見込み**となっています（図表5-1）。

経営上の問題点として「同業者間の競争の激化」「材料価格の上昇」の回答が最も多くなっており、利益確保に苦慮している事業者が多いものと想定されます。

当面の重点経営施策では前回に引き続き「経費を節減する」の回答が最も多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

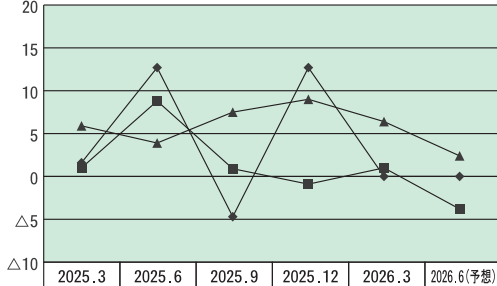
※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化 材料価格の上昇	25.0% 25.0%	売上の停滞・減少	23.5%	人手不足 人件費の増加	22.1% 22.1%
当面の重点経営施策	経費を節減する	44.1%	販路を広げる	30.9%	人材を確保する	17.6%

建設業

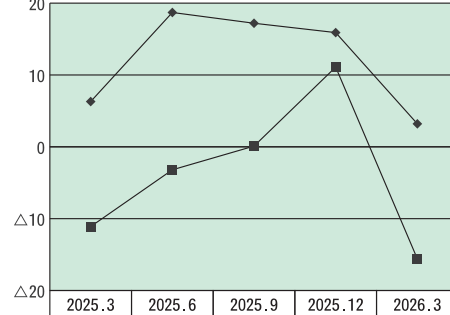
図表6-1

業況判断D I



図表6-2

前年同期比売上額・収益D I



景況 ～今期低下 次回調査期間は横ばいの見込み～

今期の業況判断D I は12.7→0.0と前回調査比**12.7ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D I は0.0→0.0と**横ばいの見込み**となっています（図表6-1）。

経営上の問題点として「材料価格の上昇」との回答が引き続き最も多くなっており、「売上の停滞・減少」と回答する企業も増加しています。

当面の重点経営施策としては問題点への対応として「経費を節減する」、「販路を広げる」、「人材を確保する」との回答が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

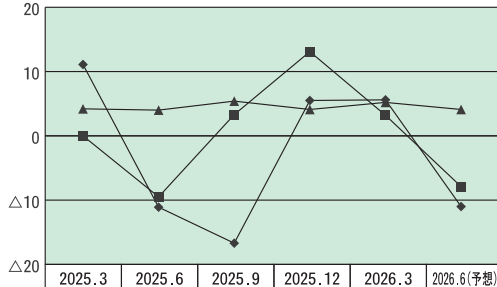
※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	48.4%	売上の停滞・減少	43.8%	人手不足	28.1%
当面の重点経営施策	経費を節減する	40.6%	販路を広げる	37.5%	人材を確保する	31.3%

不動産業

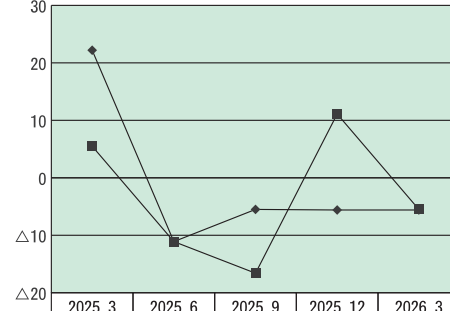
図表7-1

業況判断D I



図表7-2

前年同期比売上額・収益D I



景況 ～今期上昇 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D I は5.5→5.6と前回調査比**0.1ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D I は5.6→△11.1と**16.7ポイント低下する見込み**となっています（図表7-1）。

経営上の問題点として「商品物件の不足」との回答が増加し、「商品物件の高騰」と並んで最も多くなっています。重点経営施策としては「情報力を強化する」との回答が最も多く、商品物件の確保のため情報収集を強化する企業が多いことが窺えます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	商品物件の不足	44.4%	売上の停滞・減少	33.3%	同業者間の競争の激化	16.7%
当面の重点経営施策	商品物件の高騰	44.4%	販路を広げる	27.8%	不動産の有効活用を図る	11.1%
	情報力を強化する	77.8%	経費を節減する	27.8%		

調査先企業の声

製造業

- ・原材料の仕入費用が高止まりしているため、利益率確保に注力している。【建築用ゴム製品】
- ・新商品の開発に積極的に取り組んでおり、他業種とのコラボにより自社商品をアピールする為、展示会に参加している。【細巾織物】
- ・近年中に事業承継を実施。後継者育成にも一定の目途がつく。工場・社宅などの設備一新も視野に入れている。【衣料】

卸売業

- ・事業部門が多岐に亘っていたが、不採算部門を撤退し利益計上となっている。【雑貨】
- ・価格転嫁を段階的に実施するも、物価高、取引先減少等で利幅縮小傾向にあり、今後の資金繰りに不安あり。【土産品】
- ・メイン取引先のデジタル化に伴い、売上減少が予想されたが、新規取引先開拓により対応。【紙類】

小売業

- ・コロナ禍からネット販売が好調で一定の固定客を確保している。新たなECサイト先との提携も進めており、安定した取引状況である。【茶製品】
- ・中古車価格が上昇しており、顧客希望の商品が少ない状況となっている。当面中古車価格は高止まりの状態が続くものと思われる。【自動車】
- ・営業エリアの人口減少とともに売上減少。店売りだけでなく、デイサービスや保育園の給食への材料販売や出張販売サービスをおこない、売上減少分を補う努力をしている。【飲食料】

サービス業

- ・老人介護事業、障がい者支援事業はニーズが高まっており、安定的に収益を確保できているが、人材確保が課題である。【訪問介護】
- ・店舗周辺に大手チェーンの出店が増加しており、差別化が重要になっている。利益率の上昇を目指し、コースメニューの値上げを実施予定。【飲食】
- ・AI需要によりチップの単価が5倍に上昇しており、仕入に苦戦している。【ソフトウェア開発】

建設業

- ・公共工事を中心に受注を確保。下請けを確保できないケースが例年に比べて発生している。【配管工事】
- ・物価高により住宅の新築案件が減少しているため、企業向けの案件に注力している。【建築デザイン】
- ・官公庁より安定した受注を確保しており、原材料高の影響はあるものの販売価格へ転嫁しており、収益面は前年程度にて推移している。【建設工事】

不動産業

- ・物価高騰に合わせて賃料を上げており、利益は変わらずに計上している。利益を確保するために電気や紙代などの細かな経費を削減している。【不動産賃貸】
- ・物価高により中間層の不動産購入が低迷しており、売上減少傾向。高所得層がキャッシュで購入することもあるが、中間層はローンが通りにくいため買い手も少ない。【不動産仲介】
- ・市街化調整区域の造成を得意としていたが、市の規制により強みが活かせず、4月から減収減益が続くと思われる。【不動産販売・仲介】

おかやましんきんビジネスローン 「夢応援団」のご案内

おかやま信用金庫では、法人のお客さま専用にあらゆる事業性資金にスピード対応できる商品を取扱いしております。ご利用に関するお問い合わせは、お取引いただいております当金庫営業部店または価値創造部までご連絡ください。

記

<商品の特徴>

- ・スピード審査（仮審査は、15:00までの受付は当日回答）
- ・担保不要
- ・信用保証協会対象外業種である農林水産業の法人もご利用可能
- ・「期限一括返済」が可能
- ・一定の条件を満たせば、創業資金への対応可能
- ・3段階の金利設定

<商品説明>

1. 商品名
おかやましんきんビジネスローン「夢応援団」（株式会社クレディセゾン保証付）
2. 対象者
以下の要件を全て満たし、株式会社クレディセゾンの保証が受けられる法人のお客様
 - ・原則として当金庫に口座を保有している業歴2年以上の法人
 - ※業歴2年未満でも、商工会議所や商工会などの創業支援組織に加盟し、当金庫が推薦する場合は可とします
 - ・信用保証協会対象業種であること。ただし、農林水産業も可とします
 - ・当金庫の営業区域内に本店または支店を置く法人
 - ・反社会的勢力に該当しない方
 - ・当金庫の会員であること
3. 資金使途
事業資金（借換も可）
4. 融資限度額
10万円以上500万円以下（1万円単位）、ただし業歴2年未満の場合は200万円を上限とします
5. 融資期間
6ヵ月以上10年以内（業歴2年未満の場合は5年以内）
※期日一括返済の場合は最長1年以内
6. 返済方法
毎月5千円以上の元金均等返済、または、期日一括返済（毎月利払い、最終期限に元金一括返済）
7. 融資利率（保証料込み）
固定金利
 - ・パターン1／年4.00% ・パターン2／年7.00% ・パターン3／年11.00%※金利については、審査のうえで決定させていただきます
8. 担保
不要
9. 連帯保証人
法人代表者様（実質的支配者であり、申込時年齢が20歳以上の方）
10. 保証会社
株式会社クレディセゾン

以 上

調査の要領

- 1) 調査時点 2026年3月2日～6日
- 2) 調査対象期間 2026年1月～3月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断D I）を中心に分析
※D I＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格D Iについては逆）
- 6) その他 全国D Iならびに中国地区D Iは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	22	14	27	51	50	16	180	72.0%
10～19	6	5	6	4	10	2	33	13.2%
20～29	6	1	1	4	4	0	16	6.4%
30～49	2	1	3	5	0	0	11	4.4%
50以上	4	1	1	4	0	0	10	4.0%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	20	7	23	38	33	9	130	52.0%
10,000～49,999	17	15	14	27	31	9	113	45.2%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で6.9ポイント低下し6.4となりました。業種別においては全6業種中、小売業、建設業を除く4業種で業況判断D Iがプラスとなっており、全体として景況感はやや高めで推移しています。ただし、物価高騰による各種コスト負担の増加から多くの事業者が経費削減に取り組んでおり、利益確保に苦慮していることが推察されます。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫
価値創造部

— 2026.6 —
〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)
FAX:086-226-2288
<https://www.shinkin.co.jp/okayama/>
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp